授業づくり研修講座

テーマ「論理的な文章を書く力を高める指導」実践報告

座間市立相模野小学校

川田　奈津子

1. 教科書単元から

単元名　　動物の「言葉」人間の「言葉」（５年生　　三省堂）

目標　　　動物と人間の言葉の対比を通して、事実と筆者の感想や意見との関係をおさえ、文章全体の

　　　　　構成をとらえる。

学習活動　○動物の「言葉」はどのようなものかを読み取る。

　　　　　○動物の「言葉」と人間の「言葉」との違いや、人間の「言葉」の特色について、筆者の考

　　　　　　えを読み取る。

　　　　　○文章の構成を理解し、「言葉」についての自分の考えを文章に書く。

　　　　　　　　　・筆者の結論に接続詞（つまり、だから、しかし）を加えて、自分の考えを対比させた。

1. 学校行事から

学習課題　運動会・遠足の振り返り作文

目標　　　活動を振り返り、整理し、友達と交流する事で、思い出に残す。

学習活動　○構想

　　　　　　メモを作成→時系列で振り返る。（事実を並べる）

　　　　　　　　　　　　思った事や考えた事を加える。

　　　　　　選択→伝えたい事を選択する。

　　　　　　　　　構成を考える。

　　　　　○記述

　　　　　　文章を書く→具体的に書く。

　　　　　　　　　　　　・誰が・何を・何故・場面・自分が感じた事・視点を変えて　等

　　　　　○推敲

　　　　　　交流→友達と読み合う。

　　　　　　　　　　・読み手は書き手の書こうとしている場面を想像することができたか。

　　　　　　　　　　・読み手は文章を読んで疑問に思った事を質問する。

　　　　　　　　　 直す→読み手の質問やアドバイスを参考にして、完成させる。

1. 考察

「書く」事を苦手としている児童は多い。苦手と感じていない児童においても、文章量は書いているが、内容は同じ事を繰り返し書いていたり、場面が二転三転したりするなど、何が伝えたいのかがわからないといったところだ。今回の実践は本学級の児童の実態に合わせて段階的に取り組んできた。具体的に例文を示し、児童が「書く」事に抵抗がないようにした。友達と交流する事で、意欲的に取り組めるように工夫してきた。しかし時間や量、内容の個人差は大きい。そこで「書く」指導を系統的に進める必要があると考えた。キーワードとなる言葉から具体的な言葉を補いながら文章を作っていく事でス

ム―ズに「書く」事が出来たようだ。

説明的文章において、「論理」を読み解く学習は児童の興味関心があるか否かで理解に差がでていた。構成をおさえて、要旨をとらえる学習教材を使い、事例や筆者の考えを明らかにしたうえで内容を読み取る活動を行ってきた。文章の構成を理解するためには、文章の関連性や順序を意識させた授業展開を考えていく必要があると思った。